

龍谷大学講演会

2023年11月24日(金)

Prof. Dr. Ali TEMIZEL

(原文：ペルシア語、和訳：佐野 東生)

ルーミー思想とトルコの実践的国際交流・人道的外交

はじめに

メヴラーナはこの世に生まれたすべての人同様に死にゆく存在でした。シャベ・アールス（結婚の夜）と名付けた日にこの世界から永遠の世界に移住し、自身の永遠で真実の愛される方と会ったのでした。メヴラーナは著作、思想、生き方において卓越した個性、アイデンティティを明示しました。著作、個性、アイデンティティを通じ800年にわたり、東洋、西洋の人々の心、特にアナトリア（トルコ）の人々の心に生き続けています。

メヴラーナはあるガザル（詩の形式）でこれについて謳っています：

奮い立て、奮い立て、私たちはかけ声の徒だ
愛のほか、愛のほか、私たちに関係ない
この地で、この地で、この無垢の耕地で
慈悲のほか、愛のほか、私たちはなにも植えない

（ガザル 1475 番、1・2 節）

真の統治は心のうちに打ちたてられるもので、本当のスルタンは死後もまたその統治が終わらないものです。メヴラーナ没後750年が経ちましたが、彼の心の世界での統治は終わっておらず、彼の神に対する服従、預言者のスンナと一体化した個性は忘れられていません。ここで今日のテーマについてよりよく理解するために、メヴラーナの宗教的、精神的個性について簡単に説明するのがよいでしょう。なぜなら、メヴラーナの宗教的個性が彼の人間愛の外交の基礎だからです。

メヴラーナは人間の生活における現世、来世の幸福を、イスラーム、悪く粗野な性質から心が汚されていないこと、良質で気高く美しい習慣に心を純化すること、真理（ハック）を知ることにあると認識しています。この道で成功するにはクルアーン、預言者のスンナ、宗教の諸規則に厳密に従うことを絶対的条件としています。このため、多くのクルアーンの節を自身の著作で解釈し、これらの解釈から抽出されるメッセージを様々な物語や説明で示しています。

メヴラーナは次のように言っています：「なぜなら私たちの存在の船の帆を信頼するからです。帆があれば、風がそれを素晴らしい場所に運びますし、帆がなければ言葉が風となります」

メヴラーナは神の存在への自身の信念と神への意志を次の節で謳っています：

我々の創造をご自身の姿に似せ給うた、神（ハック）は

我々の性質をその性質から型どり給うた

(『精神的マスナヴィー』(以下マスナヴィー) 4:1193)

同様に、メヴラーナは以下のルバーイー(四行詩)で自分が神の下僕で、預言者のスンナに依拠していることを述べています：

私はクルアーンのしもべ、もし命あれば

私は権威あるムハンマドの内にある土だ

もしこの方以外にわが言葉を伝えれば

私は彼を厭い、この言葉を厭う

(ルバーイー 1331 番)

メヴラーナ当時の人道的外交

人道的外交は全体的に細かい相違はあれ以下のように説明できます：

人道的外交は、紛争、戦争、自然災害のような条件下、国際的外交がうまくいかないときに非戦闘員の保護、行方不明者の発見、人質の解放と紛争の解決のため必要な措置を講ずる努力を行う外交の一種である。要するに、これは人間、そして人類の命を守る目的の外交活動のひとつである。

人道的外交の種は 800 年前、アナトリアのトルコ人の間で芽吹きました。この人道的外交は世界全体と同様、トルコの下にある諸組織でも実施されています。というのも、メヴラーナのあと約 50 年後に没したオスマン帝国の最初のカーディ(イスラーム法官)・神秘家であるシェイフ・アダブアリー((726/1326 年没)は、13 世紀にオスマン帝国を建国したオスマン・ガーズィに対し説明し述べました：「おお息子よ、人の命を守りなさい、国の命が守られるように」

メヴラーナが生きた時代、アラーオッディーン・ケイコバード一世を除き、トルコのセルジューク朝はモンゴル帝国に貢税するアターベク(侯国)のひとつでした。未だに十字軍の攻撃の跡がアナトリアに残り、人々はモンゴルの侵攻におびえながら恐怖、野蛮さ、危険な中で暮らしていました。歴代スルタンは若年で即位し、モンゴル支配者の影響に対し無力で、統治者は互いに信頼していませんでした。

この状況下、メヴラーナ・ジャラーロッドィーンはコンヤで、自身の精神的個性によって人々に愛される人物となりました。人々のモンゴルへの従属から生じた悲嘆、苦しみはこの偉大な個性への愛と尊敬によって除かれました。書簡集との名のメヴラーナの著作に、モンゴル支配者らへの数々の書簡があり、これらの中で彼が人々の仲裁者として頼りにされていたことがわかります。モンゴル支配者らもメヴラーナの要請を受け入れ、彼が彼らの目にも重要な人物であったことが指摘できます。

メヴラーナはこのトルコのセルジューク朝衰退期に、自分の思想と行動によって人々、そして政府高官らに自信を与え、未来への精神的な指針となったのです。メヴラーナはこの対立の状況下、あらゆる人と友となり、人々、政府高官らに顕著な影響を与えました。

彼はこの動乱の時代に絶望した人々に生きる力を与え、生きる活力をもたらしたのです。このことによって、メヴラーナが当時の統治者らと仲が良く友好関係にあったことで人々の助けとなるように生きていたことが示されます。実際に、ある実際の神秘家はかくあるべきです。

メヴラーナは、当時において未来を実現させる精神的指針としてとらえられていました。聖人伝の著者たちは、セルジューク朝のスルタン、政治家多くとメヴラーナの関係について述べています。アフラキーは『靈智ある人々の治績』（マナーケブ・ル・アーリフイーン）との自著でメヴラーナと当時のセルジューク朝の高官や一流の統治者らとの関係を伝えています。この関係について、ファリードゥーン・アフマド・セバフサーラールの著、また『ルーミー語録』（フィーヒ・マー・フィーヒ）に様々な逸話があります。ルーミーの書簡集で特にこの関係が示されています。

メヴラーナの見解により今日の出来事に言いうること：

1) メヴラーナの見方による人道的な保健・外交への注意

メヴラーナは自著で当時の医学を述べる中で、病気の特長と治療法、医師と患者の関係、病気への対処法、人々の健康への信条と意識について様々な機会に触れています。

メヴラーナの見解では、医学は源泉が預言者の方々に至る啓示に基づく技術で、あらゆる病気には従うべき治療法があります。

メヴラーナは病気の治療を求めることについて次のように述べています：

曰く、あなたが熱のある病気ならば

なぜ病院に行かないのか

あるいは親切な医者の方に

私はどこでも検査を受けるのに

(マスナヴィー 6:3850-3851)

わたしたちの預言者は病気について、自分の健康のため祈ると説明し、祈ることを教えています。メヴラーナはマスナヴィーでこれに関し述べています：

預言者曰く：その病人に

こういいなさい、さあ苦しみを和らげたまえ

我らにこの世の住処で健康を授けたまえ

我らに来世の住処で健康を授けたまえ

道のりを我らにとり花園のように優雅にしたまえ

我らの住まいはあなた自身、おお高貴な方よ

(マスナヴィー 5:2537-2539?)

2) トルコの伝染性疾患の時期におけるメヴラーナの詩編による人道的国際援助奉仕と援助の最も重要な人道的外交のひとつが健康・保健分野にあります。今日、私た

ちは1-2年前まで世界中に影響した伝染性疾患（コロナ）の時期を過ごしました。この時期、人類全体が保健上の困難に直面していました。

トルコ人の中で困った人々を助け、保護する伝統があり、過去から現在まで継続しています。イスタンブールのトプカプ宮殿にある碑文はトルコ人の援助の基本理念を示しており、次の文を含んでいます：

地上における神の影にして困窮した人々の守護者であるスルタン

伝染病コロナの開始から、トルコから医療援助の多量の物資が160か国近くの世界の国々、特にスペイン、イタリアに送られました。これらの医療援助物資の表面に、ちょうどトルコと援助が届けられる国々の国旗の下に、下記のメヴラーナのマスナヴィーの節がトルコ語と送られる国々の言葉に翻訳され記されていました。

絶望のあとに希望に満ちる

暗闇を過ぎれば太陽に満ちる

(マスナヴィー 3:2924)

トルコはこのメヴラーナの言葉によって、暖かいメッセージを外交と国際関係にもたらしました。さらに、トルコはこのメッセージにより、メヴラーナの思想を通じて友好的外交を実施しうるか示しました。当然ながら、我々が過ごしているこの「世界的悲劇」において、人類はいつも「友好と連帯の実験」を放棄しています。こうした時代に、人道的国際援助物資の表面に「慈悲、希望と信頼」が記されているのは重要なメッセージです。このため、再びメヴラーナのメッセージがトルコの優しい力、つまり人道的外交からなる次元に変貌したのです。

3) メヴラーナから今日に至る人間的反響

メヴラーナは、例としてあげられるに値し、「証人」としてその著作の言葉を引用して数々のテーマでとりあげられ、ある種、話の中に位置づけられています。学者、宗教家、実業家、政治家、新聞記者、芸術家などの多くの職種の人々が、「ここでメヴラーナ曰く…」と述べながら自身の考えを補強し、実際は自身の分野に関し自分の評価を表明しようとしています。

アメリカ人から日本人に至る様々な国民からなる人々がメヴラーナを愛好しています。多くのことがこの分野においてなされつつあります。2020年12月16日、アメリカの女優で元モデルのシャロン・ストーンが父ジョセフ・ストーンの日没に、以下のメヴラーナのガザル 2577 番第 3 節第 1 句の英訳：“Open your hands if you want to be held”¹の

¹ “There is a community of the spirit.

Join it, and feel the delight of walking in the noisy street and being the noise.

Devour all your passion and be a disgrace.

Close both eyes to see with the other eye.

文を公共メディアで公表しました。

自らの手を開きなさい、もしあなたに寄り添ってほしいなら
土くれの像を壊しなさい、像の顔を見るためには
(ガザル 2577 番 3 節)

メヴラーナのメッセージはドイツのヘーゲル、ゲーテ、パキスタンのムハンマド・イクバル、インドのガンジー、ラテンアメリカのコエリョ (Paulo Coelho) (作家) に届いています。この声はニューヨークの国連ビル、パリのユネスコ会議場、ダマスカス、エルサレム、ダッカ、ニューデリー、コンヤ、テヘランに鳴り響いています。ニューヨークの国連の諸会議で世界平和の諸問題が議題となった際、メヴラーナはほとんどの場合その寄って立つ論拠でした。ダルヴィーシュが旋回する姿が敬意をもって国連の諸会議場で展示されました。メヴラーナの世界的な強い影響力と精神の枠組みで、彼はユネスコの拠って立つ顔となっています。このため、メヴラーナは常にユネスコの業務の基準に位置づけられています。ユネスコがメヴラーナを重視するのは、その設立の基本理念にひそんでいます。

4) メヴラーナと国際関係の枠組みにおけるトルコの人道援助

トルコ政府は、歴史的、文化的、宗教的、政治的関連性の観点から、無数の人々、政府と強い人間的絆、心の団結をともししています。さらに歴史的、文化的関係の地理とは別に、トルコの人道的外交は宗教、言語、民族、性別、地域を超えて全人類に届いています。なぜなら、この関係の基礎はメヴラーナと同時代のトルコの有名な神秘家・ユヌス・エムレの以下の言葉だからです：「私たちは創造されたもの（人間）を創造者（神）ゆえに愛します」

トルコが外国人留学生に付与する高等教育奨学金の名は「メヴラーナ交換留学奨学金」です。トルコは世界との愛の関係をメヴラーナの名で最善の形で表明しています。このため、未来の国際関係の基礎はメヴラーナの名に置かれるでしょう。

ここで、国際関係における内面的言葉、共感する言葉の重要性が注目されます。メヴラーナはこの意味で次のように述べ、心の言葉の重要性を指摘しています：

同じ言葉を話すのは身内、縁者だ
人は親しからぬ人とは捕虜のようだ
たとえ同じ言葉を話すインド人、トルコ人があろうと
たとえ外国人のような二人のトルコ人があろうと
それでも自ら親しんだ言葉は別だ
共感と同じ言葉を話すより良い
(マスナヴィー 1:1206-1208)

Open your hands if you want to be held.'(Daily News, Dec18 2020)

今日、その最悪の例をロシア・ウクライナ戦争で見えています。両国の人々のほとんどはキリスト教オーソドックス（正教徒）で、スラブ民族で、言葉も互いに非常に近いのですが、彼らの間に心の団結、共感がないために、幾千の人々の血が流れています。数百万の人々が家や避難所、国、配偶者、友から離れて避難し、彼らの生活の場は地獄の火と化しています。当然ながらこうした例はいくらでもあります。

このため、メヴラーナは世界に存在するものすべては人間のために創造されており、イスラームは人間を軸とした宗教であると信じています。このため、メヴラーナの目的は、人々を苦しませず、彼らの心を苦しませず、人々を喜ばせることでした。彼は、人々が互いに友、兄弟として暮らすべきと語っています。

今日、トルコとしてこの伝統を、国際関係において公的・私的人道援助組織、非政府組織の多くで継続しています、たとえそれらの名称がメヴラーナでなくても。

トルコ宗教財団、TIKA（Turkish Cooperation and Coordination Agency）、YTB（Presidency for Turks Abroad and Related Communities）、YEE（ユーンヌス・エムレ・インスティテュート）、トルコ神秘主義財団（Turkish Maarif Foundation）、AFAD（Disaster and Emergency Management Presidency）、その他の人民組織の多くの機関、財団があります。

5) メヴラーナとイスラームフォビア（イスラーム恐怖症）理解

イスラームフォビアを経験する人々は、イエスやモーセの物語に自分の宗教を見出すべきで、その一部はメヴラーナの作品にあります。特にマスナヴィーのモーセと羊飼いの物語で、人々の姿や像、言語に注目しないようにとされ、神の友人たちの間に差別はないことが強調されています。

この上に、「モーセと羊飼い」の物語において、神は2つの節でモーセに警告しています：

モーセに神から啓示が降った
我らの下僕をあなたは我らから分けてしまった
あなたは結びつけるために来たのか
それとも分けるために来たのか
(マスナヴィー 2:1740-1741)

実際、今日キリスト教徒、ユダヤ教徒、さらには無神論者の一人に至るまでメヴラーナのこれらの物語の一体性の影響を受けています。メヴラーナは、神は望まれるすべての人々を導き、人々を「別」にすることはないと知識によって、彼らが来って導かれる日を期待して人々の関心を集めるよう努力しました。メヴラーナはマスナヴィーで「ムスリム、キリスト教徒、ユダヤ教徒の物語」において、すべての人々が友人でありうるとのビジョンを抱き、述べています：

どの異教徒も軽蔑の目で見ないようにしなさい
なぜなら彼はムスリムとして亡くなる希望があるから

あなたは彼の人生の終わりについて何の知らせがあるのか
彼から顔を一度そむけたなら
(マスナヴィー 6:2451-2452)

国際関係におけるトルコの政策変化

トルコの国際関係における、文化、政治、経済、教育、人道援助の分野、また同様の諸分野での変化は積極的に展開してきました。

トルコと人道的外交

トルコの人道的外交は第一に、国際関係における人道援助、開発、和平、人権、安定性の諸課題に取り組んでいます。このため、トルコの人道的外交はトルコ外交のアプローチを示すものです。トルコの人道的外交の目的は、人道援助とプロジェクトを通じ国際的舞台における自らの影響力を増進させることです。

トルコの人道的外交分野の状況を以下の項目に要約できます：

人道援助：トルコは人道的危機において迅速で効果的な援助をなす能力がある国として知られています。トルコ赤新月社のような諸組織は、世界各地の災害や戦争、また自然災害の犠牲者らために援助を届けています。

開発援助：トルコは特にアフリカ、中東、アジア諸国の経済・社会開発の諸プロジェクトを通じ援助しています。これらのプロジェクトはトルコの人道的外交の一環として、持続可能性、インフラ開発、教育といった分野に集中しています。

和平と紛争解決：トルコは地域的、国際的紛争解決を助けるため、仲介と話し合いのプロセスを重視しています。特にグルジア、クリミア、ウクライナ、シリア、リビア、アゼルバイジャンのような紛争地域における解決に向けたイニシアチブに関心をひいています。

人権：トルコは人権擁護を強調しており、その目的は全世界での人権擁護と向上にあります。トルコの国連人権委員会でのメンバーシップと様々な人権関係の計画への参加はこの努力の一環です。

教育・文化外交：トルコは学校、大学、トルコの文化的行事を通じて海外で文化的関係を強める努力をしています。これによって海外でのトルコ言語文化が知られることを援助しています。

災害における救援実施・復興能力増進活動：トルコは全世界での災害に対応しうる能力増進、災害に備えるための他の諸国への援助のための教育と技術支援を行っています。

トルコの人道的外交は、この国による、人道援助、開発プロジェクトを通じた国際舞台での影響力あるプレイヤーに変わるための努力の一環です。このプロセスは、トルコ外交の重要な一部に変化し、トルコが地域、世界的舞台でより影響力を持つ助力となっています。

今日、人類は人種・宗教対立、差別、過激主義、外国人恐怖、イスラーム排除、その他の「別々に分ける」プロセスに苦しんでいます。トルコはこれらの困難に直面して、清らかで多様、相対的で全体的な政策の必要性を強調しています。トルコは、様々な文化・宗教間の相互の尊重、共通の価値観の推進のためになされた活動において先導的役割を果たしています。国連の文明間団結のイニシアチブはトルコとスペインによってなされ、「文明の衝突」の見解を改善するのに顕著な反響がありました。

世界におけるテロリズムや様々な過激主義の動向は危険な域に達しています。テロリスト・グループは世界の平和と安全を脅かしています。テロリズムは世界的悲劇、人類への犯罪でしょう。この犯罪への世界的闘いと団結は、どの人種、民族集団、信仰や地理もおろそかにせずになすべきものです。トルコは、どの組織、口実でなされたかに関わらず、テロリズムと積極的に戦います。

トルコは本当に世界で難民を最も受け入れるホスト国です。

2023年、トルコ共和国建国100周年、在外機関設立500周年の諸行事が大々的に行われています。トルコの人道的、主導的外交は私たち国民の利益を保障する一方で、人類の共通目的の達成に向けた役割も作っていくでしょう。

結論：

世界を統治する諸体制の崩壊は、不平等、涙、不公正と道徳的立場からの疎外を人類に増大させています。全体として、世界、特にイスラーム諸国で多くの運営上の困難があります。今日、イスラーム圏は地理的に、人々が住居、祖国、家族、仕事、子供、パンと収入と人権上の自由から疎外されたままの第一の地域の一部となっています。メヴラーナはこれに関し、統治者についても人々についても、責任を想起させる大変良い教訓をもっています。というのも、メヴラーナは基本的に、「人々への奉仕を神に創造されたものへの奉仕と、そしてそれを創造主への従順さと奉仕である」と考えているからです。

メヴラーナのメッセージはよく注目されたとき、現在と未来の共有の価値ある体制を形成するために人々を助けるでしょう。残念ながら、メヴラーナのメッセージはときに不正に利用されえます。ご都合主義的な利用と自覚しながらそれから利益を得られます。そこでこうしたご都合主義的、利益追求的行為に対し、すべての人、特に学者、専門家、神秘家らはより純粋な努力をすべきです。